

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400226		
法人名	有限会社 庄司ケアサポート		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	〒981-0501 東松島市赤井字台94		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム日和は、開設14年目を迎えます。開所当初から理念「優しさ・気配り・思いやり」を念頭に、認知症ケアに努めています。認知症だからと、あきらめるのではなく、自分の人生を自分らしく生きて欲しいと常に、社長、管理者含め職員で、話し合い、当たり前前の生活が出来る様支援しています。地域や、御家族様の理解、協力も頂き、行事等も楽しく、賑やかにしています。また、職員の人材育成も重要に考えており、半年に1度の自己・他者評価、ストレスチェック等行う他、内外の研修にも可能な限り参加。資格取得も積極的に目指せる環境作りもしています。地域の認知症ケアの拠点になればと考え、今年度より日和カフェを月1回行っています。また、グループホームでは数少ない、看取りも行っており、掛かりつけ医のご協力頂き、住み慣れた日和で最後まで過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に近い、病院、商店、民家、田畑が混在している地域にある。利用者のできることに共感し、したいことに耳を傾け寄り添い、その人らしい生活が続けられるよう支援している。職員は家族と運営推進会議や面会時など、機会を捉え、心身の状況や生活ぶりを伝え、課題を共有し、厚い信頼を得ている。また利用者が地域に溶け込みながら暮らせるよう、町内会のサロンやカフェ、お祭りへの参加や4月に立ち上げた「日和カフェ」を通じて、日常的に地域住民と馴染みの関係を築いている。運営推進会議は家族、利用者、町内会役員、民生委員、市職員の意見交換と共に認知症ケアの理解の場として地域の理解や協力に繋げている。看取りの実績もあり、その人らしく生きることを尊重したケアを看取りの理念とし、家族、医師、職員が一体となり、支援している。職員と社長、管理者、ケアマネジャーの信頼度は相互に高く、ホームは明るい笑顔と笑い声に包まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH日和 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日和独自の理念を、管理者、スタッフ間で、朝の申し送り時等に話し合い、理解ケアの実践に努めています。いつでも見える所に掲示し、常に意識しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた運営理念と事業所理念がある。理念はリビング、玄関など見える場所に掲示し、毎日のミーティングで話し合うなど常に理念を意識したケアの実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、様々な行事(避難訓練、サロン、夏祭り等)に参加しています。行事だけではなく、畑で収穫なった野菜等もお互い物々交換したりし、交流しています。	町内会に加入し、コミュニティカフェ、サロン、お祭りなどの地域行事に参加している。フォークダンスや読み聞かせのボランティアの訪問もある。また地域住民との交流の場として、4月から「日和カフェ」を立ち上げ、住民と楽しく交わり、地域と馴染みの関係を築いている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域問わず、認知症の悩みや相談にのり、必要な場所に連絡し、つなげてます。今年度より地域住民との交流になればと日和カフェを月1第四土曜日に開催しています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、入居者様始め、市担当者、町内役員、民生委員、御家族様の参加頂き、年6回開催しています。地域の情報を頂いたり、御家族様の意見を反映させ、サービス向上に努めています。	年6回奇数月に開催し、利用者、家族、町内役員、民生委員、市職員が参加している。行事や運営状況報告の他、情報交換などが行われ、利用者も意見を出し、要望が叶えられるなど、双方向な会議となっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、主催の研修会には、可能な限り参加するようにしています。	市職員は運営推進会議に参加し、外部評価にも同行するなど協力関係が築かれている。また日常業務の相談も円滑に行われている。管理者は市の認知症キャラバンメイトの講師も担うなど連携が図られている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、自由に庭に出て、畑仕事をしたり、花の手入れをしたり、天気の良い日は、外で過ごす事が多いです。身体拘束については、管理者、スタッフ間で研修し、常に見守り、所在確認徹底し、拘束のないケアを心掛けています。	職員は研修で身体拘束をしないケアの実践を学び、人権を重視したケアに努めている。外出傾向を把握し利用者にはさりげなく寄り添い、見守っている。近隣住民は日常的な交流で利用者と馴染みの関係にあり、外で見かけた場合、知らせるなど協力関係が築かれている。施錠は18:00から7:30である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の入浴により、身体の確認を行い、入居者様の少しの傷も見逃さない様努めています。虐待についても内外の研修に参加し、防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援については、繰り返し話し合いを行い、日々の業務に活用しています。制度については、内外の研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学して頂き、契約時には、十分な説明を行い理解・納得頂ける様にしています。積極的な質問がなくても、こちらからも、質問や疑問な事はないか伺う様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外にも、毎月集金を直接、御家族に持参して頂き、その都度利用者様の状況報告し、御家族が屈託なく意見を出しやすい様心掛け、出た意見は反映させています。	運営推進会議や面会時、利用料の持参時に家族と話し合うほか、心身状況の変化に応じて、連絡を密に行うなど、信頼関係を築き、運営に活かしている。また外部の相談窓口も重要事項説明書に明示し、第三者委員は民生委員に委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、社長、管理者スタッフ全員参加し、職員からの意見や提案を聞き反映しています。	月1回の全体会議や年2回の社長の個人面談で、職員の意見、要望を聞き、運営に反映させている。行事、美化、広報、居室の担当毎の意見交換もあり、サービスの質の向上へ繋げている。資格取得支援や内部・外部研修など人材育成にも力を注いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価、ストレスチェックを行い、社長との個人面談を設け、向上心を持って働ける様努めています。労働時間や職場環境について、機会があれば、研修に参加し、常に職員が働きやすい環境作りに心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外に問わず積極的に、研修を受ける機会を確保しています。経験年数に合わせて、資格取得を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りの運動会に参加したり、行政主催の研修会にも積極的に参加しています。相互に自社で行う行事や研修にも、可能な限り参加したり、参加頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、十分アセスメントを行い、御本人の意向を十分取り入れられる様しています。入居前に職員間で情報の共有化に努め、不安なく安心して頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、御家族にもアセスメントを行い、十分に要望等、傾聴する様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する時点で、その時必要な支援を見極める為に、その都度アセスメントし、御本人、御家族と話し合い対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人の人格を尊重し、出来る事を探し最大限に生かしながら、必要な所は職員が支え手助けし、お互いに信頼し毎日の生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、御家族の気持ちを大切に、出来る限り一緒に過ごせる様に工夫し、お花見や夏祭り、敬老会等四季折々の行事にも、御家族にもお声掛けし、無理なく参加して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族に、これまで親しくしていた方をお聞きし、御家族の了承のもと面会等もご家族限定ではなく、知人友人とも自由に面会している。地域の行事にも積極的に参加。毎日のドライブも馴染みの場所に訪れ、思い出話に花を咲かせています。	毎日、利用者全員でドライブし、自宅や馴染みの場所を訪れている。ホームには家族や知人、友人が頻りに訪れ、選挙投票や墓参りは家族と出かけている。職員は利用者が希望する場所へ外出支援し、住み慣れた地域と途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	屋間のほとんどは、ホールで皆と一緒に楽しく、和気藹々と過ごしています。誰か、他の人が困っていると、自然に入居者さんが、お互い手助けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族の方も、タオルや古新聞を持って訪ねて来てくれたりしています。退去された方にも時折、連絡をとり、近況を聞いたりして、必要時には、助言したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやカンファレンス、朝の申し送り時等で、1人1人の思いを共有したり、思いが伝える事が出来ない入居者様の思いもスタッフ全員で色々考え、希望と意向の把握に努めています。	各利用者との意思疎通の方法を文書化し、職員で共有している。把握困難な人への対応は朝・夕のミーティングで話し合い、利用者本位の視点でケアに取り組んでいる。趣味を把握し、編み物や計算ドリルを取り入れ、表情や言葉を観察しながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にも、御本人、御家族に以前の暮らしや馴染みのもの等お聞きし、必要に応じては、関係機関から情報を頂き、これまでの経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方、心身状態は常にスタッフ間で、情報交換を行い、日々の変化にも対応できる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意向は勿論、介護計画やより良く暮らすための課題については、スタッフ1人1人モニタリングを行い、気づきや課題を出し、介護計画に反映しています。状態変化時には、その都度、状態変化がなくても、半年に一度見直しします。	介護計画は年2回見直しを行い、状況に応じて随時見直しを行っている。計画は家族や医師の意見を取り入れ、作成している。モニタリングは3ヶ月に1回職員全員で行うなど利用者一人ひとりに全員が関わり、課題を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の把握を、朝夕の申し送りで、細かい情報や、変化等も報告する事で、情報の共有をしています。個別記録し、気づいた事や工夫も記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のその時々生まれるニーズに合わせ、良く話し合い、既存のサービスにとらわれず、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、サロン等にも、御本人の体調に合わせ参加しています。地域の方々とも顔見知りになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、御本人、御家族様と検討し、往診もして頂ける当施設の掛かりつけ医で良いと納得されています。希望があれば、眼科や歯科受診等も行っています。	利用者全員が同じかかりつけ医である。訪問診療を受けることができ、利用者、家族の安心に繋がっている。受診は原則家族が付添うが、職員も同行し支援している。看護師の管理者は毎日バイタルチェックと健康観察を行い、変化に気づきやすい体制が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での利用者様の変化の早期発見に努め、異常時には、看護職に報告、指示仰いでいる。必要時には、掛かりつけ医に相談し、受診か、往診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、個々の状況に合わせ出来る限り早期退院出来る様、関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り行っています。入居時に重度化における看取り指針を説明し、重度化した場合は、御家族様に医師より説明受け、同意頂いています。スタッフは看取り後の御家族様のケアも意識し、全員がレポートを書き、カンファレンス行っています。	重度化対応指針があり、看取りの実績もある。看取りは医師と看護師の管理者、職員、家族で話し合い、チームでその人らしい最期をむかえられるよう支援している。職員は看取り後の思いをレポートにし、カンファレンスを行い、看取り介護の質の向上に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時マニュアルを常備しています。応急手当、初期手当等AED講習会を受け、実践を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害時の避難マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練は地域住民の方々にも参加しています。市の避難訓練に参加し、避難ルートの確認行い、非常用食料、備品等を準備しています。	風水害、火災、地震、原子力対応マニュアルがあり、避難訓練は夜間想定も含み年2回実施している。回覧板で近隣住民に知らせ協力を得ている。災害時に備え、避難経路の確保や誘導灯、消火器などの設置、防災機器の定期点検、備蓄など、対策を施している。備蓄は1週間分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び名は入居時に聞き、御本人様の意向を尊重しています。どのスタッフも、1人1人を尊重し、命令や赤ちゃん言葉等使わず、個人の部屋に入る時や、個人の衣類等片づける時にも必ず、声掛け行い、了承頂いて行っています。	呼び名は入居時に利用者や家族の希望にそって決めている。管理者は職員に利用者一人ひとりの思いや行動の傾向を把握し、尊重するケアの大切さを伝えている。特に入浴や排泄支援では尊厳やプライバシーを損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする時には、声掛け行い了承頂いて行っている。拒否する言葉が聞かれても、必要な事で有れば、分かる様声掛け対応工夫し、御本人様が納得したうえで行っている。よく、食べたい物や行きたい所を入居者様より、言われるので、可能な限り対応する様しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせながら、その日の天候や暦に合わせて過ごしています。天気が良くなってくると、外に行きたいと言う声も多く、外に散歩に行く事も多くなってきています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の入浴時には、職員と一緒に、その日の着たい服を選んだり、行事等での外出時には、普段よりお洒落な服、アクセサリーやスカーフを付け、お化粧もし、出掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物は、一緒に行き、希望のものを買ってきたり、選んでもらったりしている事も多いです。野菜や果物の皮むきや材料を切ったり、出来る事はスタッフ一緒に、片づけも一緒に行っています。	メニュー作りと調理は職員が担当し、管理者が水分量や食事量を把握しながら栄養チェックを行っている。メニューは旬の野菜を使い、季節感が感じられる。利用者は職員と一緒に食事をしており、介助も丁寧に行っている。買い物や食器拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く、美味しく食べれる様、季節の物を取り入れています。水分量は個別記録し、確保しています。調理も同じにならない様、献立をたて、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来る方も時々、スタッフが歯石等の確認し、仕上げ磨き行い清潔保持に努めています。自分で、出来ない方も、口腔ケアシートやスポンジを使用し、清潔の保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表記録い、個人の排泄パターンに合わせて支援行っています。排泄の失敗が有る時は、誘導時間や方法の見直し、パットの当て方の工夫等行い、常に自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、声かけを行い、誘導している。夜間は必要な利用者に声かけし、誘導している。排泄介助はさりげなくトイレに誘導するなど羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。トイレは絵文字表示で分かりやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心に、便通に良い寒天、バナナ、リンゴ等毎日摂取出来る様工夫しています。水分や乳製品も毎日無理なく摂取出来る様工夫しています。午前午後体操行い、適度な運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴行っています。重度の利用者様は二人で、支援行い体調に合わせて入浴しています。その都度ご本人様に声掛け行い、好きな時間で入浴しています。その為か、入浴拒否する方はおりません。皆さん楽しみにしています。	入浴は毎日利用者の希望で対応している。時間や湯加減も意向にそい決めている。湯は午前、午後取り替えている。入浴ケアでは温度、安全確保、洗い方、皮膚の変化確認を重視し、その人の尊厳を損ねない対応をしている。入浴は利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中楽しく活動できる様、天気の良い日は、散歩やドライブ、買い物等行き、天候が悪い時でも、ボール投げをしたり、創作活動したり、夜間気持ち良く眠れる様工夫しています。環境整備(温度、湿度)も十分配慮し、天気の良い日は寝具を干したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法、用量について、記録や申し送り行い、周知徹底に努めています。状態変化の早期発見にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、一人ひとりの得意分野の確認行い、役割分担し、出来る事は十分発揮して頂いています。気分転換になる毎日のドライブや毎月季節に合わせた行事立案し、楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は自由に庭に出たり、毎日のドライブを行っております。雨が続いて、戸外に出れない時は、大型ショッピングまで出かけ、ウインドウショッピングしたり、食事をしたりしています。また、御家族様との外出、外食、温泉旅行等、頻回に行っています。	年間計画があり、お花見、夏祭り、芋煮会、温泉、買い物、神社などへ外出支援を行っている。毎日のドライブで買い物や自宅訪問など希望にそって、懐かしい場所や馴染みの場所へ出かけている。外食や旅行、墓参りなど家族との外出も頻繁に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る方は自分で管理しています。事務所で管理している方も、行事や買物の時、外食の時には、自分でお金を持ち、計算したりし、自分の欲しい物や食べたい物を選んでいきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方もおり、自由に電話しています。電話や手紙を書きたいと言われる時には、自由に出来る様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差しが眩しすぎない様、暗すぎない様カーテンや、照明を加減したり工夫しています。毎日行う掃除は必ず窓を開けて行っています。室温度は、外気との差が5℃以上ならない様しています。適宜、風通し良くしたり、冷暖房使用したり配慮しています。季節に合わせた絵画も飾っています。	リビングは吹き抜けの天井から柔らかな光が注ぎ、明るい空間となっている。畳の小上がりもある。壁には季節の貼り絵や油絵などが掲示されている。手作りの大きい日めくりも見やすい。温・湿度管理は職員が適切に管理している。玄関には季節の花や貼り絵が飾られ、庭には野菜畑やミニ花壇があり、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と一緒に過ごせる、テーブルや椅子の他に、ソファ用意してあり、気の合う方々で座って話をしたり、1人で集中して好きな番組を見たりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、御本人様、御家族様と話し合い、馴染みの物を持ち込み、混乱なく居心地良く過ごせる様しています。仏壇や位牌を持ち込む方もおります。	居室には仏壇や位牌、テレビなど馴染みのものを持ち込み、壁には家族の写真や誕生祝が飾られ、温かい雰囲気である。温・湿度管理は職員が行い、掃除、洗濯物の干し方、畳み方は利用者が行っている。職員入室の際はノックや声がけをし、プライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別不必要な物は置かず、環境整備行っています。ご本人様の状況に合わせて、お部屋のベットや家具の位置は配置し、自分で衣類の整理、部屋の整理が出来る様工夫しています。		